

発表

01 10:05~10:35

TAE質的研究法を活用した 教師の話し合いの価値観分析

廣口 知世

HIROGUCHI, Tomoyo

現代人間学部
こども教育学科 講師

発表

02 10:35~11:05

学校図書館の コレクション構築における 課題とその方策

岩崎 れい

IWASAKI, Rei

国際言語文化学部
国際日本文化学科 教授

京都ノートルダム女子大学 研究プロジェクト 発表会2024

司会：中藤 信哉 NAKAFUJI, Shinya

図書館情報センター会議委員

発表

03 11:05~11:35

対人言語コミュニケーション能力の 社会認知基盤に関する実証的研究

小山 哲春

KOYAMA, Tetsuharu

国際言語文化学部
英語英文学科 教授

発表

04 11:35~12:05

プティジャン版 『玫瑰花冠記録』における 東西異文化交流2

岩崎 れい

IWASAKI, Rei

国際言語文化学部
国際日本文化学科 教授

吉田 朋子

YOSHIDA, Tomoko

国際言語文化学部
国際日本文化学科 教授

研究代表者：

中里 郁子

NAKAZATO, Ikuko

国際言語文化学部
国際日本文化学科 准教授

共同研究者：

朱 鳳

ZHU, Feng

国際言語文化学部
国際日本文化学科 教授

日時：2024年2月29日(木)
10:00~12:05 (開場 9:45)

場所：京都ノートルダム女子大学
ユージニア館3階 NDホール

問合せ 京都ノートルダム女子大学 研究推進課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1

TEL.075-706-3789 FAX.075-706-3793 E-mail:kenkyu@ml.notredame.ac.jp

参加無料

事前申し込みは不要です。
どなたでも参加できます。
(途中退室可能)
後日、ネット配信も
予定しています。



交通 ACCESS

地下鉄丸線「北山駅」①番出口より 東へ徒歩7分

市バス4号系統「野々神町」下車すぐ。もしくは、「北園町」下車 北へ徒歩5分

開会あいさつ 10:00~10:05

図書館情報センター長
加藤 佐千子 KATO, Sachiko司会 図書館情報センター会議委員
中藤 信哉 NAKAFUJI, Shinya

発表 01 10:05~10:35

TAE質的研究法を活用した教師の話し合いの価値観分析

廣口 知世 HIROGUCHI, Tomoyo
現代人間学部 こども教育学科 講師

Profile

修士(教育学)。北九州市立小学校教諭8年、国立大学附属小学校教諭8年の小学校教諭を経て、現在に至る。福岡教育大学附属小学校在籍中、福岡教育大学大学院教育学研究科に進学。専門分野は、国語科教育、音声言語コミュニケーション。共同(分担)に、「シリーズ国語授業づくり話す・聞く伝え合うコミュニケーション力」「資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価」などがある。

概要

▶ 2022年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

TAEはユージン・ジェンドリン(2004)が開発した理論構築法である。得丸(2010)は、ジェンドリンの14のステップを5つのパート(①全体と中核を把握するパート、②部分を順次見ていくパート、③側面関係構成のパート、④用語システム構築のパート、⑤確認のパート)にまとめ、言語化しがたい体験的意味領域を、体験過程に言語を選ばせながらステップに沿って進む「TAE質的研究法」として確立した。本研究対象者は大分市立小学校のN教諭である。半構造化面接を行い収集したインタビューデータ(1時間42分)をプロトコル化し分析対象とした。本発表では、TAE質的研究を活用して、相互作用する学び合いをめざす教師の話し合いの価値観の分析結果について述べる。

発表 02 10:35~11:05

学校図書館のコレクション構築における課題とその方策

岩崎 れい IWASAKI, Rei
国際言語文化学部 国際日本文化学科 教授

Profile

東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。専門分野は図書館情報学、テーマは学校図書館における読書・学習支援。現在、京都市図書館協議会会長、京都市生涯学習振興財団評議員、国際図書館連盟アジア・オセアニア地域部会委員。主著: 'Public School Libraries in Inquiry-Based Learning in Japan' (共著, Global Action for School Libraries: Models of Inquiry 所収, De Gruyter, 2022.)、'探究学習における学校図書館の役割' (『レファレンスサービスの射程と展開』所収, 日本図書館協会, 2020.) 等。

概要

▶ 2022年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究

図書館のコレクション構築に関する研究は、1960年代から継続的に実施されてきたものの、日本における研究の大半は公共図書館におけるコレクション構築についての研究であり、教育機関である学校図書館に関する体系的な研究はまだまだ行われていない。学校図書館におけるコレクション構築が抱える課題はすでに指摘されており、文部科学省によって、所蔵資料の分野のバランスを取ることが求められているものの、実際には多くの学校では課題の解決に至っていない。今回は調査対象の小学校の所蔵調査と司書教諭・学校司書に対する聞き取り調査をもとに、課題解決のための方策を提案する。

発表 03 11:05~11:35

対人言語コミュニケーション能力の社会認知基盤に関する実証的研究

小山 哲春 KOYAMA, Tetsuharu
国際言語文化学部 英語英文学科 教授

Profile

京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学、University of Arizona, Department of Communication, M.A. (Communication)。専門分野: コミュニケーション学。主な研究業績: 『East Asian Pragmatics: Commonalities and Variations』(分担執筆, Routledge, 2022)、『はじめて学ぶ認知言語学』(共著, ミネルヴァ書房, 2020年)、『認知語用論』(共著, くろしお出版, 2018年)、『メタ認知能力としてのコンピテンス涵養のためのコミュニケーション教育』(日本コミュニケーション研究, 44, 17-26, 2015)、など。

概要

▶ 2021年度研究一般助成・個人研究助成金採択研究
2022-2025年度 科学研究費基盤研究(C)採択研究(22K00563)

現代人のコミュニケーション能力不足が指摘されるが、実証的に「能力不足」を検証した研究は多くなく、そもそも「コミュニケーション能力」の在り方を明確に理論化した上で人のコミュニケーション行動を検証した試みもほとんど見られない。こうした背景から、本研究は、人の言語コミュニケーション能力の基盤として社会認知能力(共感能力、視点取得能力、認知複雑性、共同注意能力、こころの理論機構、等)を想定し、その現れを実証的に検証する試みに取り組んでいる。本発表では、いくつかの発話行為に焦点を当て、それぞれのコミュニケーション行為の効果的な遂行を可能とし、他者の発話行為の適切な認知・解釈を支える社会認知能力について議論したい。

発表 04 11:35~12:05

プティジャン版『玫瑰花冠記録』における東西異文化交流2

岩崎 れい IWASAKI, Rei
国際言語文化学部
国際日本文化学科 教授

Profile

※略歴については
研究発表「学校図書館のコレクション構築における課題とその方策」解説文を参照

吉田 朋子 YOSHIDA, Tomoko
国際言語文化学部 国際日本文化学科 教授

Profile

国際言語文化学部国際日本文化学科教授。京都大学大学院文学研究科博士後期課程中退。兵庫県立美術館学芸員を経て、2011年より京都ノートルダム女子大学に勤務。博士(文学)。主たる研究領域は、18世紀フランス美術。論文に、「つかのまのユトピアとしての雅楽画とその系譜」(『京都ノートルダム女子大学研究紀要』第52号, 2022年)、『王立特待生学校(一七四九-一七七五)の意義に関する考察』(『京都美術史学』第4号, 2023年)等。

概要

▶ 2022年度研究一般助成・共同研究助成金採択研究

本研究は、4つの学際的視点からプティジャン版『玫瑰花冠記録』(1869年出版)における東西の文化的な相互的影響について重層的に探求するものである。キリスト教神学、東西語彙交流史に続き、今年度は、図書館情報学、美術史学の視点から報告を行う。宣教師に関する文献は、日本と海外との文化交流を考えるうえで、大変重要な資料だが、大半は修道院に所蔵されており、資料が組織化されずに灰色文献となっている。その実態と課題を考察する。また、『玫瑰花冠記録』の挿絵およびそれを囲む植物モチーフについては、図像の典拠などが先行研究で特定されている。今回は、石版画という技術という観点から、表現の特徴を考察する。

研究代表者: 中里 郁子 NAKAZATO, Ikuko 国際言語文化学部 国際日本文化学科 准教授

共同研究者: 朱 鳳 ZHU, Feng 国際言語文化学部 国際日本文化学科 教授